

こよみ



コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
1月

2022年1月31日

Vol 156 マーケットが不安定な時に あらためて確認しておきたい2つの視点

世界の株式市場が不安定な動きとなっています。とくに米国のハイテク株が多く含まれるNASDAQ総合株価指数が軟調に推移しており、2021年11月の最高値から、14%を超える大きな下落*となっています。*2022年1月28日時点

去年は「海外株式」に投資を行なう投資信託に資金が一極集中していたこと、なかでも米国のハイテク株に投資を行なうファンドが人気を集めていたことを併せて考えると、現在の不安定なマーケットに不安を感じている方が少なくないようです。

いつ下げ止まり・反転するかということを見通すことはできませんが、マーケットが不安定な時にこそ、あらためて確認しておきたい2つの視点をご紹介します。

■主な株価指数の推移（期間：2020年1月初～2022年1月28日）



グラフ起点を100として指数化

●NASDAQ: NASDAQ総合株価指数、●S&P500: S&P500種指数、●世界株式: MSCI ACワールド指数(いずれも米ドルベース)

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

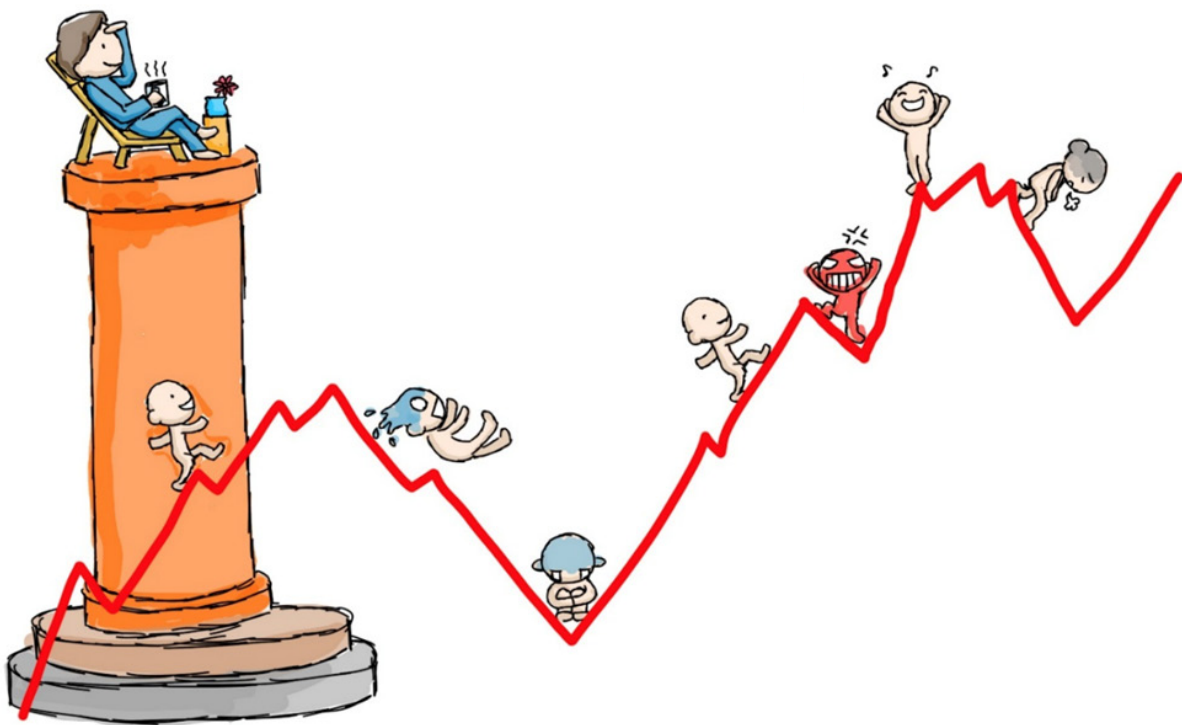
こよみ

2022年
1月

コールセンターからの、小さなよみもの

視点①「当初の時間軸」を再確認する

投資信託を、どんな目的で・どのくらいの時間軸を想定し購入したのかを思い出すことが大切です。たとえば、「20年後に3,000万円をつくりたい」と考え購入したのであれば、「ゴールはまだまだ先。(不安だけど)歯を食いしばって我慢しよう」と思えるはず。上にも下にも変動するマーケットを見て右往左往するのではなく、ファンドを購入した目的、想定した時間軸を思い出し、大きく・どっしり構えることが肝要です。また、調整局面が終わり反発し始めるタイミングで、つい「一旦売却しておこうか」と考えてしまう方も少なくないはずです。いわゆる「ヤレヤレ売り」です。気持ちは分かんなくもないのですが、正しいアクションとは言えません。



こよみ



コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
1月

視点②「前向きなアクション」を検討してみる

引き続き投資対象に長期的な期待が持てるのであれば、同じファンドを買い増すというのも有効な作戦と言えます。より低い基準価額で買い増すので、平均単価が下がり、値上がりした時のリターンを大きくすることができます。もちろん、リスクを取るお金が2倍になるわけですから、慎重な判断が必要であることは言うまでもありません。

■同額を買い増した場合の平均取得価額

		新規で買い増す場合の基準価額					
		14,000	12,000	10,000	8,000	6,000	4,000
既保有分の基準価額	16,000	14,933	13,714	12,308	10,667	8,727	6,400
	14,000	14,000	12,923	11,667	10,182	8,400	6,222
	12,000	12,923	12,000	10,909	9,600	8,000	6,000
	10,000	11,667	10,909	10,000	8,889	7,500	5,714
	8,000	10,182	9,600	8,889	8,000	6,857	5,333
	6,000	8,400	8,000	7,500	6,857	6,000	4,800

1. 購入時の基準価額を「既保有分」のところに探す。
2. 買い増しをする場合の基準価額を「新規で買い増す」のところに探す。
3. 両者がクロスするところが、同額を買い増した場合の平均単価の大まかな目安。

●平均取得価額は、1万口あたりの平均取得価額です。●あくまでも簡便な計算による概算です。買付時の手数料等を考慮していません。●あくまでも平均取得価額の計算を示すものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。●現水準での買い増しを全ての方に推奨するものではありません。



nikko am

コールセンター
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00